

里親支援在り方考える

駿河区で シンポジウム 行政、福祉関係者ら

静岡市は5日、講演 参加した。

会・シンポジウム「新たな家庭養育の流れに向けて」を静岡市駿河区のグランシップで開いた。実親の元で暮らせない子供の里親家庭での養育推進を盛り込んだ改正児童福祉法が5月に成立したことに伴い、民間の里親支援機関の活動を知り、今後の支援の在り方を探る狙い。行政や児童福祉施設などの関係者が

参加した。

シンポジウムは、行政処分を除く里親支援事業を静岡市から受託するNPO法人静岡市里親家庭支援センターなど3団体の代表者が、普及啓発や里親を希望する家庭と子供とのマッチング、関係機関との連携を柱に意見交換した。

リクルートについてエリアを絞った重点的な広報活動を紹介。「ポジティブな養育経験が口コミで広がる効果が効果的」と指摘し、里親が充実感を味わえるような地道な支援の必要性を訴えた。

講演で、全国里親会の木ノ内博道副会長は改正児童福祉法の理念を説明。静岡福祉大の相原真人教授（児童家庭福祉）は、静岡市で行った調査結果を基に、普及啓発から子供を委託した後のケアまで一貫した業務を行う

団体の重要性を強調した。
(社会部・鈴木明芽)



里親支援の普及啓発や関係機関との連携について意見交換したシンポジウム＝静岡市駿河区のグランシップ